

# 大規模災害に備える

## SKVが避難所運営シミュレーション



教室を避難所として利用できるかチェックするSKVの学生たち

大規模災害の発生時、避難所としてキャンパスをどう活用するか。学生部傘下団体のSKV(専修神田ボランティア)は8月18日、災害発生時のマニュアル作成を行った。神田キャンパスの教室や設備を見て回り、避難所としてのよさに活用できるかなどを

大規模災害の発生時、避難所としてキャンパスをどう活用するか。千代田区と協定を結び、大規模災害発生時に大学施設を一時的避難場所として提供することを定めている。また、災害救援のための学生ボランティアを育成することも取り決めている。これを受け10年に結成されたSKVは、災害時、学内と学外から被害を減らすことを目標に活動している。今回は、災害時を想定し、具体的にどのように避難所を運営するか、シミュレーションを行った。参加したSKVのメンバー30人は、それぞれの建物の教室を確認。移動や誘導がしやすいか、教室や建物内に危険箇所はないか、机・椅子は移動できるかなど、チェックシートに記入。「つり下げモニターは地震の際は心配かも」「黒板が大きいと情報を伝達しやすくない」と話し合った。その後、物資、衛生、

## マニュアル作成へ 教室を総点検

今年に関東大震災から100年の節目の年にあたる。首都直下地震など大規模災害のリスクに直面する今、本学・学生は地域と連携して備えを進め、災害時に役立つ実践的な技術の習得と、互いに助け合う力を育んでいる。

調査結果をもとにマニュアルを作成



## SKVが 活動報告



SKVの活動を報告する山崎さん(左)と江波戸さん

「災害救援ボランティア講座」の20年記念イベント「大学・行政・社協・NPO等4者連携による防災・災害ボランティア育成フォーラム」(災害救援ボランティア推進委員会

## 災害救援ボランティア講座



濱口晋介さん

委員会主催の「災害救援ボランティア講座」を受講すると、認定資格を

## 修了者大学1位

SKVの災害時マニュアル作成に、OBの濱口証と東京消防庁の「上級救命技能認定証」が交付された。本学では10年からの講座を開催しており、修了者総数は951人。濱口さんは東日本大震災後の2011年夏、石巻市でのボランティア活動に参加、SKVの初期メンバーとして活躍した。卒業後は商社勤務を経て、現在は災害救援ボランティア推進委員会(千代田区)でボランティア講座の講師を務めている。

濱口さんは「まず自分の身を守り、そのうえで身近な人々や自分の住んでいる街の力になってほしい」と話した。



6月に本学で行われた災害救援ボランティア講座。三角巾を使った包帯法を指導する濱口さん(右)

「災害時は、避難所で物資を配る、声かけをする、子どもと遊ぶといったこともボランティアになる。できることを、できる時に、できるだけやってほしい」と話す。

濱口さんが大事にしているのは「地域の人々とのつながり」だ。学生時代はSKVの救命講習を地域の人を巻き込んでやりたいと、地元町会の集まりに参加して、重要性を説明した。これをきっかけに地域に根差した活動が広がり、地域貢献は今もSKVの活動の礎として引き継がれている。

「いつかというときには身がすくんでしまうかもしれない。でも、自分たちが身につけた知識や技術に自信を持って、一歩を踏み出す勇氣を持ってほしい」と後輩たちを見守る。

# ニュース専修

専修大学ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/>

毎月1回15日発行  
発行所  
専修大学広報課  
〒101-8425  
東京都千代田区  
神田神保町3-8  
☎03-3265-5819(直)

## 主なニュース

- 23年度千代田学に土屋教授らの研究採択……………②
- ラジオCM 最優秀賞に茂木さん(文芸)……………③
- 専大カップ 南瀬谷ライオンズ2度目V……………④
- バスケット部が企画SOARERS CUP……………⑤
- 石巻専修大学 祭り参加 地域盛り上げる……………⑦



▲ 専大カップ

**大雨・台風で被災された皆様へ**

被災された皆様からお見舞い申し上げます。専修大学と石巻専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。以下の担当窓口にご相談ください。

- 生田学生生活課 ☎044-911-1267
- 神田学生生活課 ☎03-3265-6824
- 生田大学院事務課 ☎044-911-1271
- 神田大学院事務課 ☎03-3265-6568
- 法科大学院事務課 ☎03-3265-6891
- 石巻専修大学事務課 ☎0225-22-7712

## 経済・傳ゼミ



ガーナ出身ミュージシャンとセッション楽しむ

アフリカ経済について学ぶ経済学部国際経済学科の傳凱儀ゼミは、アフリカの民族音楽を体験するイベントを、7月26日、生田キャンパスで開催した。ガーナ出身のミュージシャン、オスマン・オランダ・ピンケルさんを招き、文化について学び、民族楽器の演奏を楽しんだ。写真。

傳凱儀の長崎泰征さん(3年次)は、「交流と体験を通じて、研究対象であるアフリカへの関心を広げ、理解を深めるために企画した」と趣旨を説明する。

ピンケルさんは木の実を入れて羊の皮を張った太鼓を小脇に抱え、通信手段として用いられたトキンゴドラムと呼ばれる奏法を披露。ゼミ生たちも太鼓やマラカス、カウベルを手に取り、演奏に挑戦した。ピンケルさんとのセッションでは自然と拍手が起き、会場は一体感に包まれた。高橋菜鈴さん(3年次)は、「上手に演奏できなくても、みんなで音を重ねるのは楽しかった」と笑顔で語った。

傳准教授は、「ゼミ生たちが生き生きとした表情でピンケルさんとの交流や演奏を楽しみ、アフリカについて理解を深めてくれたことがうれしい」と総括した。